



じとぜんひろば

No.108 2022年(令和4年)10月1日

地御前地区自治会



地御前地区自治会Webはこちらから↓



地御前地区自治会 創立四十五周年記念事業

7月30日(土曜日)午前10時から地御前小学校体育館にて、地御前地区自治会創立45周年記念事業が行われた。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事前に参加申し込みを受け付け、来賓者も迎えて、約180名が集まった。

オープニングセレモニーでのハッピーオレンジ隊によるダンス披露の後、式典では吉本恒雄会長の開会挨拶、堀野和則副市長の祝辞、美川忍郷土文化保存会会長の挨拶があった。

続いて、地御前出身の河田悠希選手による記念講演が行われた。

その後「アルンバ広島」の皆さんによるアンクロン演奏、山陽女子学園合唱部の皆さんによる合唱、両者の共演、地御前自治会有志が参加したアンクロン演奏と思いついたアトラクションが行われた。

記念事業の最後に、地御前小学校グラウンドでアーチェリー試技が行われ、世界レベルの実技を目の当たりにした全員が固唾を呑んだ。



「アルンバ」とはインドネシアの竹の楽器アンクロンを中心にガンバンと呼ばれる竹琴で構成する演奏形態。インドネシア語で Arunan Rumpun Bambu(竹の波の響き)という意味。1999年にジャカルタから楽器を持ち帰り、家族で演奏していたことをきっかけに「アルンバ広島」は2001年6月に結成された。

※自治会有志のアンクロン演奏動画は自治会Web「みんなの動画」から見ることができます。

河田悠希選手の 凱旋記念講演 私とアーチェリー



東京オリンピック2020アーチェリー団体競技で見事に銅メダルを獲得した河田悠希選手（エディオン所属）が、母校・地御前小学校体育館で記念講演を行った。これは地御前地区自治会創立45周年記念行事（令和4年7月30日開催）のメインイベントとしての依頼に承えてくださったものだった。

プロジェクトで視覚資料を投影してアーチェリー競技のルールや道具、競技の醍醐味などの説明があり、また、競技生活を通じて大切に思っ

ている次の3つのことを話した。

1. 夢・目標を持つこと

夢は漠然としたものかもしれないが、そこから具体的な目標を設定し、行動に移してゆくことで少しずつ現実にしてゆける。

2. あきらめない力

アーチェリーはメンタルな競技で、自分との闘いでもある。試合運びが不利に思えて「負けそうだな」と思う心があるとそれが結果に表れ、逆に最後まであきらめない心で臨むなら、たとえ負けても得るもの大きい。

3. 感謝する心

オリンピックTOKYO大会の会場を見た時に、この建設に携わった多くの方々のことを想像して感謝の気持ちに圧倒された。感謝の気持ちを持つことは、視野を広げてくれる。アーチェリーを本格的に始めた小学生の頃から、自宅から遠い練習場や学校の送迎など、ありとあらゆることで支えてくれた母への感謝は特にこの上ないもの。

講演の最後には河田選手が銅メダルを持って参加者一人一人の席を回り、参加者がメ

ダルに触れたり、重さを確かめたりできた。また、思い思いの撮影にも明るい笑顔で応じてくれ、参加者の皆さんに笑顔が広がった。



その後、地御前小学校の校庭に競技で使う本物の的を設置し、正規の距離（70m）からの射的の披露が行われた。

トピックス

◆キラキラ公園のトイレや倉庫の壁が、ボールの壁当てでひどいことになっている。幾度となく修理してきたが、防ぎようがない。いつそのことボール当て用の壁を別に設置できないものか。

◆大歳神社の石段が何段か前傾していて、降りるとき

3本の矢は8点、9点とつむぎ、最後は真ん中の10点に的中した。さすがに実際の射的はすごい迫力で、世界レベルの実技に驚きの歓声があがった。射的の後も記念撮影のリクエストに応じてくれ、気さくな人柄にさらに触れる機会となり、大人も子どもも参加者全員が河田選手のファンになった。これからの活躍が一層楽しみにいった。

今回の事業にご理解、ご協力を頂いたエディオンの方々、当日同行して射的の準備や撤収をして頂いたチームの松木監督、岩田選手にも心から感謝いたします。

にヒヤリとした方もおられたのではないかと。先日、改修工事が完了した。10月8〜9日は秋祭りが開催されるので、これでひと安心。

◆地御前市民センターにEVが増築される計画があるとのこと。自治会の活動内容のバリアフリーにも一役買ってもらえそうだ。

地区の話題

広島市と廿日市の沿岸部を走る「広島南道路」の木材港西（廿日市IC（延長1.5km））の道路工事の調査設計が着手されるとのこと。左下のQRコードから国交省の資料をみることもできる。



編集後記

★毎月11日のイエロー・レシート・キャンペーンの対象団体登録（ザ・ビック宮内店）を8月に更新した。家内にとこのBOXに入れているか尋ねたら、某障害者福祉施設だとのこと。そこがいつぱいで入れにくい時には地御前自治会のBOXに入れてねとお願いした。★最近何やら生活に張り合いがない。延々続くコロナ禍でやりたいことが制限されてきた為か。でも今ではやりたいこと自体が少なくなってきた感じがする。「〇〇したい」の喪失は最も深刻な問題かもしれない。

J・K

【発行】

地御前市民センター内
地御前地区自治会 広報事業部